

(6) WG 11：沈埋・浮きトンネル

部会長：Marcel' s Hart(オランダ)

副部会長：Jian Liu(中国)

担当理事：Klaus Rieker(ドイツ)

本 WG では、本年も沈埋・浮きトンネルについて教育、イノベーション、維持・補修による持続可能性などに関する課題を議論した。WG には 36 名が参加し、日本からは大森(五洋建設(株))が参加した。以下の報告や討議がなされた。

- ・ 昨年に引き続き、2023 年 4 月に発行された管理者ガイドの改訂作業状況の確認と、刊行に向けた作業が調整された。
- ・ 2022 年に創設の 35 歳以下の若手技術者の表彰制度 Walter Grantz 記念賞は本年該当者なしとなった。
- ・ 教育・研究開発資料、維持・補修などの 5 グループで各課題を討議した。このうち、教育では本年 8 月にオランダの大学で開催予定である Master Class の教育プログラムについて審議され、函体エレメントの位置を調整する係留索のコントロールをゲーム感覚で学べる提案があった。
- ・ 各国のプロジェクトや維持管理に関する研究など 9 事例についてプレゼンテーションと意見交換あり、日本は 2020 年に完成した東京湾での海の森トンネルについて紹介した。また、日本に対しては、当該 WG における活動へのさらなる協力の要請には要求される依頼事項に対応する予定である。

(文責：大森禎敏・五洋建設(株))

WG11 の活動状況はこちらから

[Working Group 11: Immersed and Floating Tunnels](#)